

# 宮城県加美農業高等学校作物専攻班 JGAP 認証取得までの取り組み



- 1 メンバー 農業科【3年】虎岩光誠 吉田祐里 【2年】相澤慎吾 及川空楽 大森南美 渋谷碧天 渡根麗苑  
 2 目的 ○JGAP 認証に関する知識理解を深める。  
 ○JGAP 認証を取得する。  
 ○生徒が主体的に JGAP 認証取得に向けた取り組みを実践する。  
 3 事業内容

実施項目 (実施時期)	ねらい・目標	実施状況	成果	変化・感想
<p>前期中間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ GAPとは？ (4月)</li> <li>・ GAP認証の種類を知る。 (4月)</li> <li>・ JGAP取得メンバー編成 (4月)</li> <li>・ JGAP認証取得に必要な資料の収集と作成 (5月～6月)</li> <li>・ 関連施設の現場検証 (6月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ GAPについて基礎知識と取得に関するメリットを知る。</li> <li>・ GAP認証には大きく3つの種類に分かれていることを知る。</li> <li>・ JGAP取得に向けて生徒の役割を決める。</li> <li>・ 審査時に必要な書類の種類、作成方法を学ぶ。</li> </ul>	<p>【GAPについて基礎学習】</p>   	<p>GAP (Good Agricultural Practice安全な農業の実践) について理解を深めることから取り組みがスタートしました。実際にGAPに関する学習を取り入れていくことで、作業の見える化・作業現場の見える化に繋がりその先に安心安全な作業工程が確立されていくことを学びました。</p> <p>GAPに関する基礎知識を深めていく中で、自分自身が学ぶ環境をより良いものにしていきたいという思いが高まってきました。</p> <p>JGAP認証取得にあたり、3年生を中心に書類準備・環境整備と大きく2つのグループに分かれ準備を進めていくことになりました。</p>	<p>生徒自身から消費者に安心安全な農作物を提供していきたいという意見が出されGAP認証取得を目指しスタートしました。</p> <p>当初は、GAPに関する知識を理解するところからのスタートでした。手探りの状態ではありましたが、自分たちの手で作業手順を作り上げることや、実際に作業を行う現場の課題を見つけ出す作業に意欲的に取り組んでいる様子でした。</p> <p>何よりも生徒一人一人がGAP認証を取得し、安心安全な農業を行うという目標を持って取り組んでいる姿が印象的でした。</p> 
<p>前期期末</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現場検証 (7月～8月)</li> <li>・ リスクの洗い出し</li> <li>・ 必要書類作成 (7月～8月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ GAP認証取得に向けて知識を学ぶ。</li> <li>・ GAP現地研修会に向けた準備</li> </ul>	  	<p>リーダーを中心に、作業に関わる作業舎・収納舎のリスク(事故や怪我)につながる場所を洗い出す作業を行いました。生徒同士で意見を交換し合い、改善箇所や修繕方法を出し合うことで意欲的に取り組んでいる姿が見られました。</p> <p>また、県内の宮城県農業高校で行われたGAP研修会に参加したことで、管理点や改善のポイント学ぶことができたのでより一層意欲が高まった時間となりました。</p>	<p>認証に必要な書類作成と作業現場の改善・修繕作業を行うグループの2つに分かれ授業を行いました。生徒一人ひとりが事故・怪我の起きない環境を作るために意見交換を行い、より良い環境づくりを行ってきました。</p> <p>GAP認証を取得することがきっかけとなり、普段は見落としがちであった作業工程や小道具の管理といった点にも細かなチェックを行い振り返りながら自身が行う作業を理解する時間となりました。</p> 

後期中間

- ・現場と作成資料の確認(8月～9月)
- ・JGAP認証取得研修会(9月)
- ・JGAP認証維持審査会(9月)

・維持審査を想定した資料準備, 対応力を身につける。



事前学習や研修会への参加を通して、自分たちの手でJGAP認証取得(目的)が可能であることを再認識し、さらに学習意欲が高まったと思います。また、作業工程を見直す時間にもなり、作業の理解度を深める学習効果も得られました。教員側から言われたことだけをやるのではなく、自ら課題を見つけ改善し発展させていく流れがGAP学習にはあると思います。

GAP上級指導員による現場研修や模擬審査会を経験したことで、自分たちの取り組みへの「責任」と「自覚」が芽生え、プライドを持ちながら本審査への準備をすすめてくれました。

審査120項目に適合するための書類づくりや環境整備を生徒自身が主体的に行ったことで、それぞれが理解を深め実践に生かせる力を身に付けることができました。

模擬審査では、数多くの改善点や質問をいただいたことで、生徒たちも見落としていた個所やさらにより良い環境を作るアイデアを生むきっかけにもなっていたようです。

後期末

- ・JGAP認証維持審査会(9月)

- ・JGAP認証取得
- ・JGAP認証維持

【JGAP維持審査会】



審査・判定の結果、以下の内容で、貴農場がJGAPの認証を取得したことを証明いたします。

認証農場  
宮城県加美農業高等学校

【認証の箇所】 個別認証

【認証農場住所】 〒991-8111 宮城県加美郡色麻町加美字七郎102

【農産物取扱施設】 宮城県加美農業高等学校 (栽培/収穫作業)

〒991-8111 宮城県加美郡色麻町加美字七郎102

【認証対象の農産物分類と品目】 穀物 : 米 (白米、玄米)

【標準と届】 JGAP 標準用 管理記録と報告書 資料2016

【審査対象セクター】 穀物 (栽培・収穫・処理)

【登録番号】 04000020

【登録農産物番号(変遷番号)】 410

【発行認証日】 2022年11月7日

【有効期限】 2022年11月7日

【改訂日】 2020年11月7日

〒105-8522 東京都港区芝公園3-1-22

一般社団法人日本農事試験センター  
センター長 伊藤新一

主体的取り組みの中には、目的と目標が明確になっており、生徒自身のやる気と行動力が農業教育をさらに盛り上げてくれることと思います。宮城県内初のJGAP認証農場となった本校からGAPコンサルティングや農業のグローバル化をすすめる架け橋となっていくことを期待しています。

JGAP認証を取得できたことで生徒一人ひとりの自覚と責任感が深まったとともに、宮城県の農業をさらに盛り上げていくきっかけになればと考えています。

